

生活・介護支援サポーター養成講座が始まります

- 日時: 6月14日・21日・28日・7月5日・19日
いずれも金曜日
10:00～15:00
- 場所: 綾部市福祉ホール
- 募集人員: 25名
- 締切日: 6月7日(金)

平成21年度よりスタートした生活・介護支援サポーター養成講座も 第18期をむかえました。シルサポNEWS、広報誌などでも告知いたしますが、みなさんの「口コミ」が最も力強いです。お知り合い、サロンなかまなどにお声掛けお願いいたします。

全国の認知症サポーター数 10,658,581人

平成30年9月30日
(うちキャラバン・メイト数 152,690人)
綾部市 地区別サポーター数 ※1

地区	サポーター数	人口 ※2	人口に占める割合
綾部	847	11,674	7.2%
中筋	336	5,809	5.8%
吉美	176	2,454	7.2%
西八田	312	1,773	17.6%
東八田	222	1,808	12.3%
山家	531	1,413	37.6%
口上林	174	623	27.9%
豊里	603	3,725	16.2%
物部	254	1,495	16.9%
志賀郷	277	1,240	22.3%
中上林	336	1,040	32.3%
奥上林	89	455	19.6%
市外	223		
その他	38	264	
合計	4,418	33,773	13.1%

※1 地区別サポーター数は受講カード提出者のデータとしており、誤差が生じておりますのでご承知おきください。

※2 平成30年3月31日現在、準世帯を除く。

「出前」します。

認知症サポーター養成講座

- 対象: 自治会・福祉推進組織・学校
ボランティアグループ・老人クラブ
PTA企業等
- 参加者: どなたでも(10名以上・年齢不問)
- 内容: 「認知症の基礎知識」など
1時間程度
- 費用: 講師・資料代不要
(会場は、各団体でご準備ください)

綾部市キャラバンメイト連絡会
(綾部市社会福祉協議会内)0773-43-2881

全国の市における サポーター数ランキング (平成30年9月30日現在)

- 【総人口に占める割合】
- 1位 山鹿市・熊本県 (34.851%)
 - 2位 阿蘇市・熊本県 (34.483%)
 - 3位 小矢部市・富山県 (34.243%)
 - 6位 綾部市・京都府 (31.402%)
- 【サポーター一人あたりの高齢者人数】
- 1位 みよし市・愛知県 (0.7人)
 - 2位 長久手市・愛知県 (0.9人)
 - 3位 近江八幡市・滋賀県、菊池市・熊本県、山鹿市・熊本県 (1.0人)
 - 5位 綾部市・京都府 (1.2人)
- 【総人口1万人当たりの講座開催回数】
- 1位 水俣市・熊本県 (135.846回)
 - 2位 阿蘇市・熊本県 (112.427回)
 - 3位 綾部市・京都府 (105.739回)

全国キャラバンメイト連絡協議会の資料を元に集計したものです。

シルバーサポーター(認知症サポーター)向けニュースレター

第24号

シルサポNEWS

[編集・発行]
綾部市社会福祉協議会
〒623-0012 綾部市川糸町南古屋敷5-1
TEL 0773-43-2881 FAX 0773-43-2882
http://ayabe-shakyo.or.jp

ご協力ありがとうございます！

綾部市内の「シルバーサポート店(事業所)」

綾部市社会福祉協議会では、地域ぐるみで高齢者の暮らしを見守り、安心ある生活としていくために、シルバーサポート店(事業所)を募集しています。お仕事の中、あるいは移動中、少し心配な高齢者を見かけたとき、いち早く必要な機関に連絡をいただき、問題の早期発見、早期対応に貢献していただくものです。

今回は、既にご協力いただいている事業所をご紹介します。

お客さまへの基本は、「みんなに親切」がモットー

(駅前通)「カフェ・ピアノ」

「カフェ・ピアノ」はオープン以来22年。常連のみなさんと一緒に歩んできた年月と振り返る。当時、若かった人も今は高齢者。喫茶店は昔と違い高齢者の「いこいの場」的役割を果たしていると。お話しを伺っている間も、ひっきりなしにお客さんが来店。「にこやかに」先人に声をかけながら席に座る。常連さんの「ほっと一息」つける居場所になっていると強く感じました。

「シルバーサポート店(事業所)」としての意識も強く持っていており、

認知症への啓発についても、個々の認識の温度差が大きく難しい。子どもの頃から「草の根運動的」に周知する必要があるのでは。また、サポート店での情報や対応事例なども周知してほしいなど貴重なご意見を聞かせていただき、ありがとうございました。



3月19日、綾部市ITビルにおいて、「京都高齢者あんしんサポート企業」養成研修が開催されました。綾部市社会福祉協議会も協力参加し、シルバーサポート店のみなさまに参加のお願いをしたところです。

また、参加お願い時に同封いたしましたアンケートにつきましても、多くのサポート店様より回答いただきありがとうございました。

アンケート調査の結果

1.顧客状況は？

同じ話を繰り返す。
認知症と聞いている。
会話が混乱する。
お金の計算が出来ない。
などが大半でした。

2.研修会、勉強会は？

特に研修会の必要性を感じていないが大半でした。
その他、費用面、時間的余裕がないなども上がっていました。

3.広報誌は？

ほとんどの事業所からおおいに役立っているとのご回答を得ました。

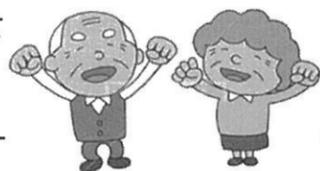
こんなことあれこれ

- 預金通帳やキャッシュカードの管理ができなくなるケースがある。何度も通帳やカードの再発行を依頼されるケースが多くある。
- 自称「自立老人」への対応に苦慮することがある。紙に書いて渡すことも有りますが、それさえも拒否される場合が多い。
- 近所の認知症のおばあさんが、何度も訪れ店先で過ごしていました。帰り道がわからなくなるので自宅まで送ることがたびたびありました。その後、おばあさんは「施設」に入所されました。
- 店の前の「歩道」で転んで怪我をされた高齢男性がありました。「眼科に行きたい」と「道に迷われた」様子もあり「自宅に電話をと言うが、家には誰もいない」とのこと。警察にお世話になり、自宅まで送ることができました。警察からは救急車を呼ぶように言われましたが、どうすべきか考えさせられました。
- 来店時、本人が「アルツハイマー型認知症」だと言われたので、同じ話の繰り返しも対応できました。
- 「認知症」と思われるかたとの電話対応は、同じことの繰り返しで長電話になり困ったことがありましたが、丁寧に聞いて相手の気が済むように対応しようと努力しています。

こんな綾部に するために

- 高齢者の生活に配慮が行き届いた綾部にするために一人一人の意識を高く持つ必要がある。
- 病院へ行かなくても「認知症のレベル」がわかり、みんなで「レベル数値」を共有できる社会を。
- 一人暮らしの人が立ち寄れる場所。「おしゃべり会」「やさしい体操教室」など気軽に行ってみたくするような場所があればと思う。
- ちょっとした心づかいがある町に。
- ひとりでも多くの人が、認知症を含む高齢者の状況や思いを理解すること。小さい頃から繰り返し体験することが大切なのでは。
- 近所同士お互い関心を持つことが大切。

<ご協力ありがとうございました>



psms.jp - 0211771



認知症サポーター、シルバーサポート店のみなさまに耳より情報!!
困っている方、悩んでいる家族に是非知らせてあげてください。



認知症カフェは、絶望から希望に繋がるための場所です

認知症の人やその家族、地域住民、介護や福祉の専門家など誰でも、気軽集える場所です。訪れることは自由で、帰ることも自由です。お茶だけでもよいのです。ここでは、認知症について知る、学ぶ、考えることができます。介護保険制度や地域の社会資源をよく知る専門家がかかわっています。介護ストレスの軽減の場だけでなく、あらたな出会い、地域とのつながりの場です。気楽な気持ちで一度訪れてみましょう。

本人と家族の「繋がり」

父親は、2年前に認知症と診断されていたのですが、見守り程度で介護保険サービスは必要ありませんでした。仕事をバリバリしていたこともあり、地域の人とのつながりはあまりありませんでした。いくつかのデイサービスには行ってみたのですが、本人は行きたくないといいますが、でも、この認知症カフェには来るのです。楽しそうに話しをする父親を見ることができます。

認知症のことを「学ぶ」

妻は、認知症と診断されてから自信を無くしています。でも認知症カフェに来てみて、認知症のことを本人が学ぶことで、少しずつ前向きになっていきました。本人も家族も認知症について一緒に学び、知る機会があるということは本当に助かります。

リラックスした「語り」

母親は認知症と3年前に診断されました。共働きであり、施設を利用しようか迷っていました。ケアマネージャーさんには施設を勧められているのですが、どうしても決心が付きませんでした。認知症カフェに来て、専門職の人とリラックスして話をする母親を見ると、「施設でも大丈夫」と思えるようになり決心が付きました。

「地域」とつながりをつくる

夫は、認知症と診断されたのですがきわめて初期で特に介護保険サービスも必要ありません。病院では、できるだけ地域との交流を図るようにしてくださいと言われましたが、本人は乗り気ではありません。外出しても買い物程度で、人と話す機会はあまりありません。そこで認知症カフェに来てみると、そこに集う人は理解をしてくれる人ばかりでとても楽しく過ごすことができています。

(認知症介護研究・研修仙台センター冊子より引用)

ハッピーカードの取り扱いについて

- ▼ハッピーカードは、みなさんが日ごろの生活の中で、少し心配な高齢者に対して、「こんな支援ができた」「こういうことで喜んでくれた」など、実際のあったたくさんのエピソードを記録していただき、シルバー（認知症）サポーターのちょっとした助け合いの活動を広く紹介していくためにお渡ししているものです。些細なことでも結構ですので、ぜひみなさんのご意見をおよせください。
- ▼今回お届けしたハッピーカード(2019)は4月よりお使いください。2018年度分は、綾部市社会福祉協議会へ郵送、または直接お届けください。ご協力をお願いいたします。